

中華民国画廊協会のご紹介

1970年代末、台湾経済奇跡の時代に画廊の数が激増し、芸術市場は活性化されましたが、組織が統合されるまでには至りませんでした。そこで当時の画廊界及び文芸界関係者の有志が、画廊協会を組織する意を唱えました。「中華民国画廊協会」は、1992年（民国81年）6月8日、正式に成立し、台湾内政部に登録されました。協会は毎年一回、定期的に画廊博覧会を開催しており、1995年、大きく転換を図り、博覧会は国際市場を開拓し、国際的な台北国際芸術博覧会(Taipei Art International Fair)となりました。1997年のアジア金融暴風下に、アジア各国で芸術博覧会が次々と中止される中、画廊協会は唯一、「台北国際芸術博覧会」の開催を堅持し、揺るぎませんでした。2007年には第14回「台北国際芸術博覧会」が開催され、アジア芸術博覧会において最も歴史ある芸術博覧会となっています。

2007年5月29日、順風満帆に開幕した「Art Taipei 2007 台北国際芸術博覧会」では、国内外から計65店の知名な画廊から絵画が集結し、5日間に及ぶ芸術博覧会では、約50,000人以上もの民衆を引き付け、2006年の博覧会より20,000人以上多くの人々が訪れました。特に週末2日間の人出が多く、1日で10,000人以上もの人々が会場を訪れ、屋外展示エリアも50,000人以上の人波が集まりました。結果、5日間の取引成立額は新台幣ドル4.5億となり、芸術博覧会史上、最高新記録を達成しました。2007年の素晴らしい成果により、「Art Taipei 2008 台北国際芸術博覧会」はアジアの芸術市場から引き続き注目を集めております。国内外市場双方の流通チャネルを確立し、收藏家と画廊の間に国際交流プラットフォームを提供することを目標に、アジア及び欧米の優秀な画廊、メディア、收藏家へ参加の呼びかけを拡張しており、「Art Taipei 台北国際芸術博覧会」は既に各画廊及びアジアの所蔵家、画廊、メディアの重要なチャネルとなっています。

「Art Taipei 2007 台北国際芸術博覧会」が成し遂げた素晴らしい成果は、台湾の文化芸術への情熱の向上を証明しています。この観点から、画廊協会は芸術を愛する精神を持ち

ながら、台湾の芸術産業のために努力し、アーティストと芸術市場のプラットフォームの創造を提供するのみならず、更にアジアの画廊と世界の画廊の多角的な交流を支援し、将来、台湾の芸術活動が更に多くの国際的な共鳴を獲得し、台湾アートが国際化に向かって邁進していくことを希望しております。